

有限会社マイティ千葉重

大津京さん



地域づくりの想い語る

「想い」が集まる現場に来ることができて良かった。一月の宮城県大崎市、夕暮れの蕪栗沼を埋め尽くすマガンの群れを見ながらそう思いました。

二〇一四年秋から参加した「東北の美しい未来創造塾」

125

東北復興日記

で講師の大和田順子さん（JKSK理事長）から、「自然との共生」「サステナブルな暮らし」をテーマとしたツアーの企画をしてみませんかという呼びかけがあり、観光プロモーションに興味があった私は手を挙げました。

大崎地方には越冬のためシベリアからやってくる十萬羽を超えるマガンなど渡り鳥と共生する「ふゆみずたんぼ農法」（冬でも水田に水を張る農法）を実践する米農家がいいます。その取り組みを知り、将来も続けていくために何ができるか、仙台の女性に考えてもらうことがツアーの趣旨です。



ツアーは大崎の魅力を五感で感じられる構成を考えました。お正月で疲れた胃腸を整える朝ヨガから始まり、古川の「ふつつつ食堂」で地元食の「発酵料理をおいしく味わい、松山の「一ノ蔵」で蔵見学と試飲、酒かすパック体験（もっちりきめ細かな肌に変身！）、最後は田尻の蕪栗沼でマガンのねぐら入りを見学というプログラムでした。

ツアーは大成功。ランチがおいしかった、ふゆみずたんぼ農家の西澤祐輔さんや、蕪栗沼の保全に取り組むNPO蕪栗ぬまっこくらぶ事務局長の高橋のぞみさん、小田嘉子さん撮影の二十代の

二人の話に興味を持ったなどと感想をいただきました。特に目をキラキラさせながらかわいい声で的確なガイドを行なう高橋さんは大人気。また会いたい！と皆が思いました。

この感動・共感の要因は、その現場へ伺い五感で感じるとともに、熱意をもって地域づくりに取り組む地元のキーパーソンと会ってお話を聞いたことに尽きると思います。その人が一生懸命私たちの目を見て「想い」を熱く語る。人の心を動かすのは人の心と、あらためて感じた一日でした。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。